

燕労災病院の理念

◎働く人々と、地域の人々のために最善の医療を目指します。

病院の基本方針

◎安全で質の高い医療の提供を目指します。

◎勤労者の健康管理を支援します。

◎医療に関する教育・研修を支援します。

◎地域の人々の健康を守り、福祉に寄与します。

目次:

*高気圧酸素治療	1
*市民・医学講話 *当院における電子カルテ導入について	2
*ケースズによる健康講話 *行事食について	3
*外来診療科別担当医師表	4

燕ろうさいつうしん

高気圧酸素治療

第二脳神経外科部長 大野 秀子

当院には、新潟県内唯一の第二種高圧酸素治療装置があります。

高圧酸素療法とは、「大気圧よりも高い環境の中に患者を収容し、高濃度酸素を吸入させることによって病態の改善を図る治療」と定義されており、一酸化炭素(CO)中毒、減圧症(昔は潜水病と呼ばれていたもの)、急性循環障害、重症感染症(ガス壊疽など)その他の疾患が治療対象となります。治療装置には第一種と第二種があり、第一種とは、1名の患者を収容する装置で、寝たまま入るカプセルのようなもの。第二種とは、複数の患者を収容できる装置を指します。実際には金属製の大きな円柱型のタンクで、中はちょっと潜水艦の内部みたいな感じです。

第二種装置には、第一種に較べてより高圧での治療が可能、複数の患者を同時に治療できる、点滴やモニターのついた具合の悪い患者を治療出来る、必要に応じて医療介助者が中に入れる、などの利点があるのですが、現在国内の第一種装置が約900台、第二種装置は約50台で、意外に多くありません。

自分が大学の医局人事で当院に来たのが4年前。もともと医師免許以外に潜水士免許を持っており治療に興味があったのですが、上司の小池俊朗 Dr. が高気圧酸素治療専門医をお持ちであったことも奇遇と思い、先生のご指導のもと、着任と同時に勉強を始めました。高気圧環境潜水医学会に入会し、3年間の臨床経験を積むと専門医試験を受けることが出来ます。試験の学習範囲は潜水士国家試験と半分くらいは共通の内容なので、自分にとっては取り組み易いものでした。

当科が扱う中で最も多いのは、CO中毒です。ガス漏れ、火災などの現場では同時に複数の患者が発生することも多く、第二種装置の出番となります。COは血液中のヘモグロビンと強固に結びつくため、治療が遅れば組織、特に脳細胞の酸欠状態を起こし後遺症につながる恐れがあります。高圧酸素装置のCOヘモグロビン減少効果は、単に酸素吸入のみを行った場合とは段違いです。半ば意識朦朧、フラフラの患者さんが1時間の治療後にシャッキリして装置から自力歩行で出てくるのを初めて見たときには、かなり驚きました。

次に減圧症。潜水士が水中という高圧環境から大気圧に戻った時に急に関節痛や手足の痺れを生じた、レジャーダイビング終了後短時間で飛行機に乗ったら症状が出た、などの病歴では減圧症が強く疑われます。第二種装置による一刻も早い治療が必要ですが、日本海側では自衛隊舞鶴病院、鳥取大学医学部救急部と当院の三か所のため、時には県外からの患者様も受け入れます。患者が出ない時でも、近隣の港湾工事や、北陸新幹線の橋梁工事に



伴う潜函作業、TV取材でカメラマンが佐渡の海に入る、といった時には事前に連絡が入り、万一の事故対応を依頼されます。陰ながら、新潟県及び近県の水中作業を支えている存在です。

他科では、眼科における網膜動脈閉塞症、外科では腸閉塞（イレウス）などにも治療が行われています。これはもしかしたら治療対象？と思われるケースがありましたら、遠慮なくご相談いただければと思います。



【お知らせ 1】 電子カルテ導入について

私たちの病院では来年(平成23年)3月に電子カルテを導入することになり、現在その準備を進めています。電子カルテとは、今まで紙に記載していた診療に関するいろいろな記録(医師記録や看護記録、種々の検査結果など)をすべてコンピュータで記録し保存することで、従来の外来カルテや入院カルテといった紙カルテやいろいろな検査伝票や報告書などの、診療の際に発生していたペーパー(紙)を一切なくしてしまふ”ペーパーレス”にするシステムです(”レス”というのは英語で「なくす」という意味です)。

3年ほど前に、私たちの病院ではエックス線画像を記録するフィルムをなくし、それらをコンピュータの画面上でみる”フィルムレス”システムというものを導入しましたが、今回はそれに加えて、診療に使う紙がなくなる”ペーパーレス”になりますので、診察室からはフィルムもカルテもなくなって、すべてはコンピュータの画面上でやりとりが行われることとなります。もっとも、患者様にお渡しする診断書や、病気や検査についての説明用紙などは、従来通り紙で提供されますので、患者様にご迷惑がかかるようなことはありませんが、電子カルテ導入に伴って、受診の手続き方法や手順などが多少変更になりますので、それについては後日、院内掲示などと併せてお知らせいたします。

電子カルテを導入する利点はいろいろありますが、一番の利点は、私たちの診療業務のいろいろな場面でコンピュータのチェックが入ることで、より安全で正しい医療を提供できるようになる、ということと、院内ならば、いつでもどこでも診療に必要な情報を得ることができるので、診療情報の共有が容易になり、業務の迅速化がはかれるということです。

電子カルテ導入に伴って、病院には新たに200台以上のパソコンが、各病棟や各科外来および薬剤部といった各診療部門に設置される予定で、私たちの病院の基盤となっているシステムが大きく変わることとなります。従って、職員が慣れるまでの間、一時的に患者様にご不便をおかけする場合もあるかと存じますが、地域の皆様方によりよい医療を提供するための新たな一歩となるものですので、ご理解くださいますようお願いいたします。

【お知らせ 2】 市民・医学講話を開催いたしました

11月2日(火)午後6時30分から燕労災病院外来ホールで内科渡辺健雄副部長による医学講話「呼吸器感染症について」が開催されました。

かぜは、主にウイルスの感染により上気道(鼻腔や咽頭など)に炎症がおこるものをいいます。その中でもインフルエンザは高熱を伴い上気道症状だけにとどまらず全身に痛みを感じ39~40℃の高熱を伴うものです。最近流行の新型インフルエンザは、下痢などの消化器症状が多い可能性が指摘されています。

うつされない、うつさないために「咳エチケット→マスク→手洗い→うがい」のように、できるだけ多くのフィルターをかけ、感染予防に取り組みましょう。

当院では「地域医療を担う」、そして「勤労者医療を推進する」という観点から、地域の皆さんへ医療に関する講演を行っています。

ご聴講は無料で、会場は外来ホール、時間は午後6時30分からおよそ1時間です。次回は3月を予定しておりますので、ぜひお越し下さい。

